

第 39 回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績や新人による意欲的な労作に贈られます。

このほど、2015年6月までの1年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会会員の推薦をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会（永田桂子委員長・竹内オサム・土居安子・目黒強・武藤清吾の各委員）による選考の結果、次のとおり決定しました。

なお、授賞式は11月7日（土）午後4時40分より大阪教育大学（大阪府柏原市）で開催される当学会、第54回総会の席上にて行います。

2015年9月

日本児童文学学会会長 佐藤 宗子

第 39 回日本児童文学学会賞

◇加藤理『「児童文化」の誕生と展開 大正自由教育時代の子どもたちの生活と文化』

港の人 2015年3月19日

【贈賞の理由】本書は、長年の研究をもとに、克明な調査を通して、「児童文化」資料を発掘し、「児童文化」が誕生し、展開する重層的過程を明らかにした大著である。特に、大正自由教育時代における、仙台、大阪、函館の児童文化運動を掘り起こし、これまで不明であった歴史的事実に光を当てることにより、児童文化研究をより発展させるものである。

【受賞者の略歴】1961年、仙台市生まれ。早稲田大学大学院教育学部、同大学院文学研究科教育学専攻修了。文教大学教育学部教授。博士（文学）。主要著書に『「ちご」と「わらは」の生活史—日本の中古の子どもたち』（慶應義塾出版会）、『くめんこ』の文化史』（久山社、日本児童文学学会奨励賞）、『育つということ—中野光の原風景』（久山社）、『「北の国から」の父と子』（久山社）、『駄菓子屋・読み物と子どもの近代』（青弓社）、『叢書 児童文化の歴史』全三巻（共編著、港の人）など。

第 39 回日本児童文学学会奨励賞

◇大橋眞由美『近代日本の〈絵解きの空間〉—幼年用メディアを介した子どもと母親の国民化—』

風間書房 2015年1月31日

【贈賞の理由】本書は、明治から昭和戦中期までに刊行された絵本・絵雑誌研究の力作である。絵本・絵雑誌と母親と子どもによって構成された受容の場を〈絵解きの空間〉と定義づけ、幼年用メディアを媒介に、子どもと母親が国民化される諸相を考察している。丁寧な資料の検証は、これからの絵本・絵雑誌研究に貢献するものである。

【受賞者の略歴】1950年、和歌山県生まれ。大阪府立大学大学院人間社会学研究科人間科学専攻博士後期課程修了。博士（人間科学）。現在、大阪府立大学客員研究員、京都女子大学ほか非常勤講師。主要業績に『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅰ～Ⅲ』（共著、ミネルヴァ書房）、『大正期の絵本・絵雑誌の研究—少年のコレクションを通して』（共著、翰林書房）、『《新日本幼年文庫》『ヒバリハソラニ』考—「戦時」との関係を考える』（『児童文学研究』36所収）など。

第 39 回日本児童文学学会特別賞

◇千森幹子『表象のアリス テキストと図像に見る日本とイギリス』

法政大学出版局 2015年4月30日

【贈賞の理由】本書は、近代日本における翻訳と挿絵を通じた「アリス」の受容過程を、さまざまな関連領域の知見を反映させ、明らかにした労作である。出版されずに終わった初山滋の『不思議國のアリス』図像を発掘し、先行する西洋の図像からの影響を明らかにするなど、児童文学の挿絵史に一石を投じるものである。

【受賞者の略歴】1950年、和歌山県生まれ。英国 East Anglia 大学大学院英米研究科博士課程修了。PhD。現在、帝京大学外国語学部教授。主要著書に、Sense in Nonsense: The Alice Books and Their Japanese Translators and Illustrators (PhD 論文)、『不思議の国のアリス～明治・大正・昭和初期邦訳本復刻集成』（編集解説、エディションシナプス）、Tove Jansson Rediscovered (共著、Cambridge Scholars Publishing)、Illustrating Alice (共著、Artists' Choice Editions)、『図説 翻訳文学総合事典』第5巻（共著、大空社）、『十八世紀イギリス文学研究』第4号（共著、開拓社）など。